

学位研究 第10号 平成11年6月 (論文)

[学位授与機構研究紀要]

経験学習と単位の認定

－ポートフォリオ形式による経験学習評価制度－

Experiential Learning in the United States: Prior Learning Assessment through Portfolio

山田 礼子

Reiko YAMADA

Research in Academic Degrees, No.10 (June, 1999) [the article]

The Journal of National Institution for Academic Degrees

経験学習と単位の認定

ーポートフォリオ形式による経験学習評価制度ー

山田 礼子*

はじめに

アメリカでは1970年代以降、経験学習への関心が裾野にまで広がり、キャリア開発、社会政策、カリキュラム開発等に経験学習による認定制度が盛んに導入されるようになった。さらには、高等教育機関にもこうした経験学習の応用が導入されるようになり、今日では、多くのアメリカの高等教育機関において、経験学習認定制度は普及している。アメリカにおける経験学習とは、シモスコによれば、学習者が特定の技能や知識を習得することにおいて、実践や現実場面に直接関与することで学習していく過程¹として定義されている。高等教育機関では、経験学習はPrior Learning²として呼称されることがより一般的である。

Prior Learningの評価および単位化の方法としては、大学外での学習の単位認定にはCLEP, DANTEs, NLNなどの大学レベルの単位認定試験, ACEやPONSIなどの全国的な大学外教育課程の認定, そしてポートフォリオ方式による経験学習評価等が制度化されている。

本稿では、アメリカの高等教育機関においてPrior Learningの評価および単位化の方法として制度化されつつあるポートフォリオについて、具体的な事例を中心に概観することにしたい。その際、第一に、Prior Learningの評価および単位認定の制度化と基準づくりに中心的な役割を果たしてきたアメリカ成人および経験学習評議会（Council for Adult and Experiential Learning 以下CAELと省略する）について紹介する。次にアメリカの高等教育機関におけるPrior Learningの評価および単位認定制度化の現状を簡単に見た後、ポートフォリオを実際に積極的に導入し、活用しているRegis University（以下レージス大学とする）を事例として、ポートフォリオ方式による経験学習評価制度の実際を簡単に報告することにする。

CAELの役割

CAELは1974年に成人への生涯学習の機会を拡大する目的で、設立された非営利団体である。CAELの主たる役割として、第一に教育機関との連携によって、職場での従業員の学習機会の拡大と充実化と目指すこと、第二に、高等教育機関における経験学習の評価と単位認定制度化に向けて、様々な助言を行いながら基準作りを実施することがあげられる。特に、第二の役割

*プール学院大学国際文化学部助教授, 学位授与機構客員助教授

として挙げられている高等教育機関における経験学習の評価と単位認定制度化(Prior Learning Assessment以下PLAと省略)にたいしては、1974年の設立以来、ETS(Educational Testing Service)の指導を受けながら、CAELは主導的役割を果たしてきている。たとえば、ポートフォリオによる評価に際しての基準作成や原則を打ち立ててきただけでなく、実際にポートフォリオ評価を実施する教授陣やスタッフのトレーニングを担ってきた。さらに、PLAに関する調査研究および出版に従事することにより、PLAの質の向上にも貢献してきたといえよう。ここで、CAELがアメリカ全土の高等教育機関に対して実施したPLAの実施状況における調査の抜粋を紹介する。

高等教育機関における経験学習評価の現状

PLAは、教室外での学習を評価認定するすべての方法と定義され、これには前述したAP、ACT、PEP、CLEPやDANTES等の標準試験、各大学で開発されている科目挑戦試験(course challenge examination)、及びACE(American Council on Education)ならびにPONSИ(Program on Noncollegiate Sponsored Instruction)からの推薦による職業教育プログラムや職業訓練プログラム受講の評価とそれ以外のポートフォリオや面接などによる評価が含まれている。

CAELは1991年にCOPA(Council on Postsecondary Accreditation)のアクレディテーションを受けている3694の全高等教育機関に対して、PLAの実施状況の調査を実施し、調査対象機関の47%が回答した。

主な調査結果は次のようになっている。

- 回答機関の86%が標準試験、ACE及びPONSИによる推薦認定、ならびにポートフォリオによるPLAを導入しており、そのうち52%が公立の高等教育機関であった。
- 72%の回答機関がPLAによる単位認定を一般教育に充当していた。
- 63%が準学士号取得にPLAによる単位認定を組み入れ、61%が学士号取得に単位認定を組み入れていた。
- 大学院での単位認定にはわずか8%の機関しかPLAを組み入れていなかった。

次に、機関別の特徴についてみると、

- 回答機関のうち91%の公立高等教育機関、および82%の私立高等教育機関が何らかの形でのPLAの利用を報告した。
- 回答機関の92%の4年制大学、89%のコミュニティ・ジュニアカレッジが何らかの形でのPLAによる単位を認定していた。
- 所属している地域アクレディテーション機関別に見てみると、PLAの利用率は中部地区、北西地区基準協会の91%から西部地区基準協会の77%までの範囲となっていた。
- 標準テストによるPLAに関しては、CLEPの採用が90%と最も高く、APの採用が89%と続い

ていた。

- －ACE/PONSIによる推薦を教授陣による再評価することなしに認定している機関は、回答機関の30%以下となっていた。
- －ポートフォリオや面接などの個別のPLA方式³を導入している機関は、回答機関のうち49%に上っていた。ほとんどがこの方法によって認定した単位は学部での単位に換算しているが、大学院レベルでの単位に換算している機関は8%のみとなっていた。

さらに詳しく個別のPLA方式の内訳を見てみると、以下のようになっている。

個別のPLA方法（複数回答）

ポートフォリオ形式	87%
能力提示（competence demonstration）	54%
面接	47%
その他	33%

CAELが実施した調査結果から、数あるPLAのなかで最も高等教育機関に普及している方式は、標準試験を利用しての単位認定であることが明らかになった。特に、CLEPとAPが高い頻度で利用され、各大学が開発したチャレンジ試験とACE/Militaryの推薦が続いていた。

ACE/PONSIの推薦による企業での訓練を単位化して認定するよりも、ポートフォリオや面接等による個別のPLAによる単位認定がより普及していると思受けられるが、個別のPLAによる単位認定を導入している機関ほど、ACE/PONSIの推薦も単位認定している傾向が観察された。

一方で、4年制高等教育機関におけるポートフォリオによる単位認定の増加率の著しさが観察された。地区別の特徴としては、西部地区基準協会所属の高等教育機関において、PLAの概念の普及が最も低いことが明らかになった。とりわけ、西部地域におけるポートフォリオなどの個別のPLAによる単位認定の採択率は他の地区基準協会所属の高等教育機関より著しく低いことが明らかになった。

ここで、実際の個別のPLA方式のひとつであるポートフォリオの実際の事例を紹介したい。

レージス大学でのポートフォリオの実際

1. レージス大学の概要

1877年に設立されたカトリック系私立大学であるレージス大学はコロラド州デンバーに位置する。レージス大学の特徴は、伝統型学生（18~22才）を主な学生集団とするレージス・カレ

ッジと成人を中心とした非伝統型学生を学生集団とするSchool for Professional Studiesに組織上分割されていることである。カレッジには学部と大学院があり、学部は哲学、宗教研究、ビジネス、社会科学、自然科学と数学、人文学の5つの専攻分野から成り立っている。

School for Professional Studies（以下SPSと呼称する）は学位取得を目指す非伝統型学生のための学部課程プログラム、Master of Arts in Community Leadership (MACL)、Master of Arts in Liberal Studies (MALS)、MBA、Master of Nonprofit Management (MNM)の4分野の大学院修士課程プログラム、職業人や専門職を対象としたキャリア開発プログラムそしてエクステンションや継続学習プログラムを提供している。

SPSの授与する学位はBAとBSであるが、非伝統型学生が各専攻分野での学位取得に際して、PLAを効果的に利用できるように、実際的なプログラム内容となっているのが特色である。歴史、芸術、言語学、哲学、政治学、社会学、心理学、経済学、コンピュータ科学等の伝統的な学問に加えて、組織管理、銀行業務管理、コミュニティサービス、人的資源管理、労務管理、中小企業管理、広報等の職業人である成人の経験が評価され、単位認定が可能となるように構成されている。

SPSへ非伝統型学生として入学するための要件としては、3年間にわたるフルタイムでの職場経験と高校あるいは高校同等の学習課程を修了していることとなっている。

2. 経験学習評価制度化の背景とその内容

レージス大学が伝統型学生対象のカレッジプログラムと非伝統型学生対象のSPSに組織上分割されたのは1991年であった。1970年以降、学生人口の減少を迎えて、当該大学は成人対象の継続教育プログラムや、キャリア開発プログラム等を提供してきただけでなく、通常の学部課程プログラムに非伝統型学生を受け入れ、ポートフォリオや標準試験によるPLAを導入していた。しかし、恒常的な学生数の減少に対処し、健全な経営をしなければ存続できない私立大学として、レージス大学は非伝統型学生のための画期的な学位取得プログラムを提供する方向へと政策を転換したのが1991年のこととなる。その結果、上記のように伝統型学生対象のプログラムを提供するカレッジと非伝統型学生対象のプログラムを提供するスクールの2つの組織に分割された。現在では、レージス大学では、ポートフォリオなどの一連のPLAは、School for Professional Studiesという学部の学士課程プログラムで取り扱われている。

非伝統型学生が学位取得を円滑化できるように、①集中プログラム (Accelerated Program)、②インディペンデントスタディ (Guided Independent Study)、③メディア学習 (Regis Televised Learning) の学習方法が選択できるようになっている。

集中プログラムは、5~8週間の期間での単位取得が設定され、職場からの通学がしやすいようにサテライトキャンパスでの受講が可能になるような配慮がなされている。インディペンデントスタディは、学習アドバイザーの指導のもとで、学習者である学生、科目履修コンサルタント、学習アドバイザーが承諾書 (Agreement) を交わす契約学習 (Learning Contract) という学習スタイルのことを意味している。この契約学習では、通常の学習と同様に45時間の学習に対

して1単位と換算されており、その時間の中には計画、科目コンサルタントとの面接、科目の学習が含まれている。1週間あたりの学習時間は17~20時間に設定されており、8週間の期間を終了すると3単位を取得する。メディア学習は5週間または8週間にわたるビデオおよびケーブルテレビを通じての学習となっている。

全米ではおおよそ1500の高等教育機関がCLEP、PEP、DANTES等の標準試験、ACEによって認定された職場訓練や、ライセンス、修了証、およびポートフォリオによる経験学習評価制度(PLA)を採択しているが、レージス大学でも非伝統型学生を対象としているSPSを通じて、PLAが導入されている。

レージス大学で導入されているPLAは以下のように分類できる。

1. 標準試験 – CLEP, DANTES
2. レージス大学が独自に開発しているチャレンジ試験 – 30種類にわたる科目試験
3. 単位のトランスファー – 他の高等教育機関での取得単位、軍関連施設での取得単位、ACEの推薦にもとづいた職業訓練の単位化、CORPA認定による職場経験の単位化、
4. ポートフォリオによるPLA

次に、レージス大学で導入されているポートフォリオがどのように運用され、いかに学生の経験を評価、単位認定しているか概観し、評価の基準について見てみることにする。

3. ポートフォリオの実際

レージス大学ではポートフォリオ方式で履修できる単位の上限は45単位(学士課程科目15科目に相当)となっている。ポートフォリオ以外にも、標準テスト、チャレンジテスト、トランスファー単位を組み合わせてことによって、最大限3、4年次に履修する単位の半分までの履修が可能となっている。1982年にポートフォリオプログラムを導入して以来、延べ4000人がこの方式を利用している。

4. ポートフォリオによる経験学習評価過程

ポートフォリオ・プログラムは以下のようなプロセスですすめられる。

4-1 準備段階

ED202(1単位)(Experiential Learning and Assessment Course)履修登録

学生はこの科目を履修し、ポートフォリオ専門家の指導のもとでポートフォリオエッセイ・ライティングを学習する。同時に、ポートフォリオによる科目履修をポートフォリオ専門家と相談し、各人の学位取得計画を設定する。このコースでは単位取得の条件としてポートフォリオエッセイの提出が義務付けられている。ポートフォリオ専門家は、学生がポートフォリオを完成するにあたっての具体的なアドバイスをするだけでなく、学生の学位取得計画の指導全般に

関与する。具体的には、ポートフォリオあるいは標準テスト等のPLAで認定、単位化するために適切な科目を推薦し、上記にあげた集中プログラム (Accelerated Program)、インディペンデントスタディ (Guided Independent Study)、メディア学習方法を利用しての学位取得計画の作成にも関与する。

4-2 ポートフォリオ方式による履修段階

①ポートフォリオによる科目履修リストの例

レージス大学で単位化できる科目とレージス大学以外の機関で単位化できる科目に分類される。

レージス大学の科目履修リストの例

広告、セールス、監査、ビジネス文書、マーケティング、危機管理、在庫管理、農場経営、管理運営等、コミュニケーション、コンピュータ、犯罪司法、教育、英語、芸術、心理、宗教、写真、異文化間コミュニケーション等

レージス大学以外の機関による科目履修リストの例

家族保険、顧客サービス、ホテル・レストラン経営、栄養と管理、不動産、小売業管理、給与計算、社会サービス入門、ストレス管理等

約13部門にわたるおおよそ150科目においてポートフォリオでの履修が可能となっており、他の高等教育機関においてポートフォリオで履修した科目の単位認定の上限は、18単位となっている。ただし、補習教育科目や発展科目はポートフォリオによる単位認定科目として認められていない。

②ポートフォリオ方式による経験学習評価制度を学生が利用する際のガイドライン

一職業上、人生上の経験を経験学習として評価される際に、いかにそうした経験から学習しているかをコルブの経験学習モデルにもとづいて合理的に説明できること(自己評価できること)。

一文献等から得た知識学習と経験に基づいた学習を明確に区別できること。

一経験によって学習した成果を証明あるいは提示できること。

例 現在の地位(昇進のプロセス)、資格取得、受賞作品、受賞等

③ポートフォリオエッセイの評価の基準

レージス大学では、ポートフォリオエッセイを評価するにあたって、CAELが1989年に設定した基準¹を採用しており、主な基準を以下にまとめてみる。

・エッセイの内容が経験から学習した成果が明確に文章表現されていること。単位は例えば仕事に従事していた期間に対して認定するのではなく、あくまでも学習成果に対して認定するこ

と。

・エッセイがコルブの経験学習モデルに基づいて書かれ、経験学習の過程が明確化できていること。

このモデルとは、「経験が編成された結果、知識が創出される過程」⁴として定義されているが、図示すると次のようになる。

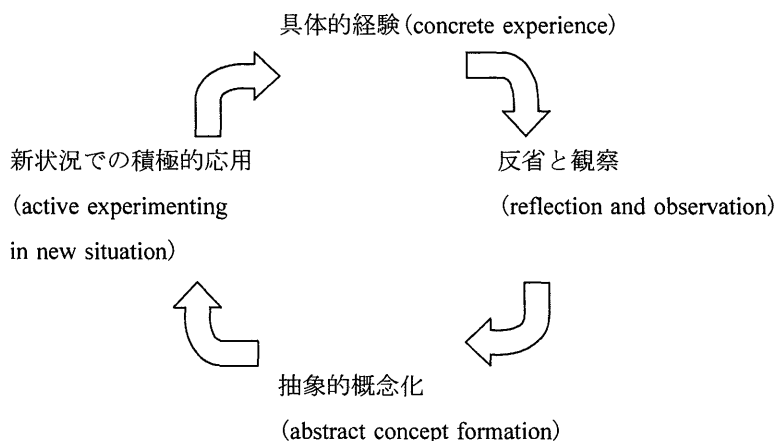


図1 コルブの経験学習モデル

すなわち、学習経験を明確化し、如何に、何を学習したかを明示し、どのように学習を実際に状況に応用したかがエッセイに明示されていることが肝要となる。

・エッセイの内容がカレッジレベルの内容であり、文章力もカレッジレベルであること。

レージス大学におけるポートフォリオの評価点と評価者の基準は次のようになっている。

・ passか failで評価し通常のgradeでは評価しない。

・ 評価者は、各分野の専門ファカルティ、あるいは経験学習を理解し賛同するファカルティまたは、職業従事経験を持つ大学院生の場合もある。

④ポートフォリオの添付書類

ポートフォリオは正式な書類の束であるため、次のような書類が添付されていなければならない。

第一部 手続き関連書類

チェックリスト

個人の学習テーマ

成績表 (以前に高等教育機関で履修した科目がある場合)

学位取得計画表

PLA実行プラン (資料1を参照)

第二部 経験学習関連書類

ポートフォリオエッセイ (7～12ページ) (資料2を参照)

従前経験学習エッセイ

documentation等

まとめ

アメリカの大学ではPLAと呼ばれる経験学習認定が多くの高等教育機関において制度化されている。その内容としては、標準試験、各大学で開発されたチャレンジ試験の単位化、職場等での訓練や職業経験を専門機関が認定した後に、その単位を高等教育機関にトランスファーする方式、そして本稿で事例として扱っているポートフォリオによる認定が代表的なものである。こうしたPLAはアメリカの高等教育機関が学生人口の急減期を経験し、かつ生涯学習への移行と平行して発展してきたといえる。

PLAの普及率についてみれば、全米の高等教育機関が一様というわけではない。地域別に見た場合、ニューイングランド地区、中部、北西地区基準協会に属する高等教育機関においてPLA制度はかなり高い比率で普及しているが、西部地区基準協会に属する高等教育機関でのPLA制度の導入率は上記の地域よりは低くなっている。いふなればPLA方式の導入は北西、ニューイングランド、中部地域がより進展し、西部地域は多少発展段階にあると言い換えられよう。

本稿で事例として扱っているレージス大学のSchool for Professional Studiesでは、成人を中心とする非伝統型学生対象のプログラムを積極的に展開している。その一環として、代表的なPLAによる単位認定法が導入されている。ポートフォリオを導入して以来、レージス大学でポートフォリオ方式を利用して学位を取得した学生はそれほど多数派ではない。実際に学位取得を目指すには、試験等を単位に換算し、ポートフォリオ方式を利用したとしても、かなりの単位を通常の学士課程科目から履修しなければならないため、非伝統型学生にとって超えられる壁はまだ高いという理由が主なものである。同時に、ポートフォリオ方式を理解し妥当に評価できるファカルティがそれほど多くないこと、あるいは従来からの学習観を持つファカルティのポートフォリオへの認知度が高くないことも現実問題としては残っている。しかし、ポートフォリオ導入以来、利用学生数は順調に増加しているし、非伝統型学生からの評価も高い。

なお、ポートフォリオは機関ア kreditationによって、学士課程のみに認められており、大学院課程ではポートフォリオはまだ認められていない。そのため、大学院課程学位取得を希望している多くの高学歴職業人のニーズに合うようなPLA制度の運用が今後の課題として残っている。しかし、CAELによるPLAの基準が作成され、多数の高等教育機関がこの基準モデルを採用するなど、評価の基準はかなり統一されつつあるように見受けられる。

ポートフォリオを中心に、アメリカの高等教育機関で導入されているPLA制度の実態を見てきたが、それまでの経験を評価するシステムがしっかりと構築され、標準化されているのが特

徴であるといえよう。標準試験，各機関で開発された様々な科目試験，職場での経験や訓練の評価そしてポートフォリオによる評価においても，学習によって到達すべき目標が設定され，そのため学習してきた内容をどのように測り評価するかの基準が明確になっている。ポートフォリオに関しても，ポートフォリオを提出するだけで，単位が認定されるというわけではない。ポートフォリオ作成のための準備コース履修から始まって，実際の完成までにはかなりの時間と労力が費やされ，学習時間は相当なものになる。このようにアメリカにおけるPLAとは，それまでの何らかの経験について評価し単位化するシステムととらえるのではなく，ある基準をクリアした場合においてその経験を評価し単位化するシステムと考えるべきであろう。

現在，PLAの導入率は地域や機関によって一様であるというわけではないが，非伝統型学生からの高い評価を鑑みると，今後はより多くの高等教育機関でPLAが普及するであろうと予測できる。

¹ Simosko, S and al., (1988). "Experiential Learning and Assessment" in *Assessing Learning: A CAEL Handbook for Faculty*. Maryland: CAEL.

² 従前の経験学習という意味になる。本稿では，経験学習ではなくPrior Learningとしてあらわしたい。

³ 個別のPLAには能力提示，ポートフォリオや面接などによる評価が含まれている。

⁴ Whitaker, U. (1989). *Assessing Learning: Standards, Principles and Procedures*. Maryland: CAEL.

⁵ 後小路肖美 (1994). 「経験学習過程の理念モデルに関する研究－コルブの理論にもとづいて」, 『日本教育生涯学会年報』, No.15, pp179~195.

参考文献

CAEL. (1992). *Prior Learning Assessment: Results of a Nationwide Institutional Survey*. Chicago: CAEL.

Keeton, M. (Ed.) (1994). *Perspectives on Experiential Learning: Prelude to a Global Conversation about Learning*. Chicago: CAEL.

Mandell, A., Michelson, E. (1990). *Portfolio Development & Adult Learning: Purposes & Strategies*. Chicago: CAEL.

Regis University. (1996). *Regis University Bulletin 1996-1998*. Denver: Regis University.

Regis University (1997). *School for Professional Studies Undergraduate Program ED202 Experiential Learning and Assessment*. Denver: Regis University.

Simosko, S and al., (1988). "Experiential Learning and Assessment" in *Assessing Learning: A CAEL Handbook for Faculty*. Maryland: CAEL.

Whitaker, U. (1989). *Assessing Learning: Standards, Principles and Procedures*. Maryland: CAEL.

* 資料1, 2ともにRegis大学School for Professional Studiesより掲載許可を取得している。

資料1

EXAMPLE: PRIOR LEARNING ACTION PLAN

Name Mike Queen (xxx)xxx-xxxx (xxx)xxx-xxxx
 Day Phone Evening Phone
 Planned Degree B.S. Bus. Admin. N/A N/A
 Major Emphasis
 Projected Date of Degree Completion December 1996

DEGREE REQUIREMENTS TO BE COMPLETED THROUGH PORTFOLIO

REGIS COURSES

Course Number and Title	LD/UD	Hours	Degree Requirement Fulfilled	Date to be Completed
BA 360 Family Finance	LD	3	General Elective (GEL)	7-1-94
BA 202 Bus. Writing	LD	3	Core: Lit/Hum.	8-26-94
CA 210 Speech Comm.	LD	3	Core: Oral Comm.	9-30-94
BA 479 Anal. Aspects CS	UD	3	Upper Div. Major	10-28-94

NON-REGIS COURSES

Course Number and Title	LD/UD	Hours	Degree Requirement Fulfilled	Date to be Completed
met 131 Quality Assurance	LD	3	General Elective	11-25-94

(OVER)

EXAMPLE: PORTFOLIO ESSAY FAMILY FINANCE BY MIKE QUEEN

Like many people, I cannot recall being taught about finance as a child or young adult. As my adulthood progressed, various job promotions brought more and more income to my household. It was frustrating to find that we continued to live paycheck-to-paycheck, despite our rise in income. It seemed the old saying was true, the more we made, the more we spent. A series of events and experiences that followed acknowledgment of our financial problems helped me to learn how to manage our family's finances in a systematic fashion. In this essay I will explain how we awakened to the problem and how I learned to budget our household, invest for our future, finance our growth, profit from real estate, and insure to protect us.

The Awakening

One day an advertisement arrived in the mail from a firm that promised to grant me the ability to control my finances and acquire wealth. I realized how financial issues rarely crossed my mind. I determined that I was making a lot of money, but going nowhere fast. I realized that without a financial plan, our spending went unrestrained, and we were not building our savings. I soon concluded that I was making a very big mistake by ignoring my family's finances and that it was time to do something about it.

I initiated my financial education by purchasing Successful Investing & Money Management (refer to item A), a home study course offered by the Hume Group Inc. of Atlanta, Georgia. Through this self-study course I trained for 18 months. Every three weeks, two lessons arrived at my door. Each lesson concentrated on a single subject and included thirty to forty pages of material. Often these lessons directed me toward other sources of information such as books and periodicals available at the local library.

One of my first lessons gave me the task of discovering my current financial position. I followed the instructions and examples provided by the text. I gathered our records and built our first household financial statement, the balance sheet (refer to item B). The balance sheet enabled us to compare what we owned against what we owed.

The next lesson I received dealt with budgeting. Using my check book register, I generated a list of monthly incomes and expenses for the prior six months. With list in hand, I undertook the tasks of building income (refer to item C) and cash flow statements. These two statements allowed us to see where our income came from and how it was distributed through our expenses.

I discovered that our household had a negative net worth. The cause of this, I noticed, was that we had spent very foolishly. As I investigated the budget further, I foresaw that monthly spending

would be more volatile than monthly income. Additionally, it seemed that for our household, a cash flow statement did not provide any more additional information than the income statement. This was largely due to a limited number of income streams and expense avenues.

I observed that although budgeting was very rewarding, it was also very time consuming. I ascertained that I needed software to perform financial budgeting and planning in a timely and error free manner (refer to item D). It appeared that having developed a budget, our financial requirements were predicted with a higher degree of accuracy. I saw that planning of our major expenses could be anticipated and accounted for.

It Takes the Whole Family

After further analyzing my financial situation, I developed financial goals for my household. Goal number one was to eliminate our accumulated debt within eighteen months. Goal two was to build checking and savings to the equivalent of two quarters' salary. Goal three was to begin building long term savings for our children's college expenses and our own retirement. With these goals in mind, I then formulated a financial plan.

I realized that the interest rate curve favored early entry into a savings plan to make the most of compounding interest. I questioned my ability to grow income fast enough to build savings at the rate I desired. I hypothesized that successful investment could make up some of the shortfall from our slower-than-desirable income growth.

Through sacrifice and diligence, we eliminated all our household debt with the exception of our mortgage. I generated a plan that would take the money freed by debt reduction and redirect it to savings. I opened a brokerage account at Charles Schwab, Inc. and began making deposits into a money market fund.

As I made my deposits, I noticed that saving required much more discipline than I had expected. It was very easy to find another use for money targeted towards savings. On one occasion, I diverted money designated for savings into a car stereo. I did not really need a new stereo. This one just had more gadgets, and gadgets sparked my urge to spend! From this and similar experiences, I concluded that a voluntary savings plan was not going to work for us. To counter the savings threat that impulse spending imposed, I filed a payroll deposit agreement with my broker. Now the money meant for savings never fell into our hands.

Saving was not the only problem though, as more than once we failed to meet our monthly budget. It was then I discovered that a family budget takes the entire family's participation. We had been cheating by nickel-and-diming our budget away. A baseball cap, another music CD, a new toy . . . each of us had concluded that ten dollars "wouldn't hurt." Through detailed review of our budget at the end of each month, we were able to see how these small expenses added up, and we eliminated our overspending.

The savings plan process illustrated to us that we could gain wealth and that was a wonderful

feeling. I discovered that rather than going shopping during our idle time, we could focus our attention and imaginations on acquiring wealth, and how to learn more about acquiring it. An additional benefit was that having successfully budgeted my household finances, I saw that I could begin to apply this knowledge at my workplace, where budgeting is also a major concern.

Our first Investment

Having established financial stability, I now began to invest. By comparing companies in the same business, I learned that a good balance sheet and predictable earnings often separate good investments from bad. By reviewing the price and volume history of many stocks, I realized that large price fluctuations occur because a number of people suddenly discover, or suddenly change their mind about, the company's prospects.

Putting my new knowledge to work, I bought shares in a small natural gas distribution company, Grand Valley Gas Company (refer to item E), which I had selected from an investment newsletter. I formulated several ratios from data in the company's annual report. I evaluated operating margin, debt-to-equity, inventory turnover, and return-on-equity. The financials of the company tested solid.

Earnings were rising, debt was low and the asset turnover rate was high. Only a few analysts followed the stock, so it was waiting to be discovered. I also believed that the natural gas industry had a bright future. I directed my broker to buy 500 shares at seventy-five cents. Twenty months later, after a two-for-five reverse split, I sold my first stock investment (refer to item F) at \$8.375 a share, a 347-percent gross profit!

I was very happy at this time, for I had correctly diagnosed a profitable situation. It seemed my financial education had changed my way of life for the better. It puzzled me that I had not taken these steps years ago. I contemplated what other investment experiences lay ahead.

This exercise illustrated to me that all business activity is really investment activity. Business money is not spent, but is invested either wisely or poorly, toward future return. I decided that my household could profit by doing the same. This knowledge has also improved my ability to feel comfortable about my job security, as I have identified signs of financial stability within my workplace.

The Dreaded Leaf Shredder

Successful investing led me to learn more about finance. I recognized that debt is supposed to be used as leverage to increase assets, for example, a mortgage or a margin loan. Debt should not be used to purchase items that do not add to wealth, such as my garden leaf shredder.

My eight-horsepower, super-duper, shreds-all, leaf shredder cost \$1,112. The manufacturer gladly extended credit at a 16.95 annual percentage rate. By the time I finished my payments I had paid another \$1,500 in interest, bringing the total to over \$2,600. After making several batches of superb compost for use in my garden, the leaf shredder went into the corner of the garage. To make a long story short, my leaf shredder has not moved for over four years now. My \$2,600 investment did not

substantially increase my assets, does not provide any income, and has not added greatly to my family's well being. I had financed nothing of substance and had done so at a very high interest rate.

I ascertained that I had done a poor job of financing not only my leaf shredder, but my home and everything else for which we had borrowed money. I concluded that the household borrowings and credit card debt we had accumulated could have easily been financed at lower rates. When I borrow again, I will first identify multiple sources of finance. I will then settle for the agreement that provides the lowest total cost.

Look Before You Leap

Although I knew that real estate could be very profitable, I questioned my ability to invest in real estate beyond my own home. I realized that direct investment in real estate often requires a large sum of money. I also realized that real estate could also be hard to dispose of when interest rates are high or when demographics change.

As I began to study real estate principles, I learned that real estate was a "hard" asset and was not likely to disappear as are some paper or "soft" assets. I observed that, in real estate, location is everything. People have always gathered around desirable properties. I learned that desirable commercial and residential rental properties could provide substantial income flows.

With my Lotus 1-2-3 spreadsheet, I tested various income producing models to see how well rental income covered expenses at different occupancy rates. I customized my model with other variables, such as energy prices, maintenance and major repairs. I observed that rental properties were more complex and risky than I had expected. I concluded that rental properties would be too non-liquid and too risky for us, with our children's college education needs only a few years away.

I evaluated real estate investment trusts (REITs) as possible investments. Using a charting service I subscribe to, I identified two REITs that held promise. The most promising, United Dominion, had a prolonged period of sustained share price increases and stable dividend payments. A second stock, First Union Realty, had been beaten down by the market and was possibly nearing a turn-around point. The economy appeared to be picking up, and I held off purchase until I could see how the two stocks reacted to a rise in interest rates. I am glad I looked before I leaped.

Rising interest rates have since shown that REIT prices also come down (refer to item F). My two investment candidates declined twenty-four and thirty percent, respectively, during the twelve months following my first look at them. I have however, established that REITs should eventually become part of my investment portfolio. The value of real estate cannot be denied. While I wait, I have composed spreadsheets to help monitor demographics and interest rates, and when I determine that they are favorable again, I will purchase shares of one or more REITs.

The Assurance of Insurance

Although it is difficult to insure against investment losses, it is much easier to insure against life's other ups and downs. Even though the probability of need may be small, insurance should be used to

protect loved ones as well as property. Just like my family, insurance is not static. It must be realigned periodically to keep up with changes in costs, income, and assets.

As I organized my insurance, I discovered that my insurance coverage was inadequate, and I could save money by reducing my premiums. To begin, I estimated realistic life insurance coverage needs for my family. I calculated the amount of life insurance coverage it would take to pay off our mortgage, provide for the children's college education, and supplement my wife's income enough so that the family's standard of living would not be drastically changed.

For my home insurance, I selected coverage amounts that adequately cover a total loss of the dwelling and contents without becoming excessive. Excessive coverage would have driven the cost of the premium beyond what was necessary. Once I had proper home coverage, I increased my deductible. By doing so, I drove down my premium, and the money saved was redirected to our savings account.

I discovered that insurance was not as difficult as I had anticipated. Before this learning experience, I had already known that life insurance protected assets. I now observed the importance of short-term and long-term disability coverage for the protection of income. To my dismay, my group disability plan at work provided little coverage. I extended my coverage period with a supplemental policy.

The knowledge I collected through my insurance experience helped when I was "volunteered" to become a member of an insurance policy board formed at our workplace. We were responsible for recommending a medical insurance policy to the general workforce that gave the best value for the cost of the premium. With my new knowledge I helped others struggle through the process of picking an adequate plan.

Adequate insurance coverage has eliminated the majority of our concerns over what life would be like, if I, as the major source of income, should turn ill or if something worse should happen. As a bonus, with our lower premiums we were able to create new funds for savings.

Conclusion

For someone who knew absolutely nothing about household finance, I feel I have come through this learning process with significant new knowledge, probably the most significant knowledge I will ever obtain. Household finance has opened the doors into the world of money, a world I did not even know existed before my learning experience.

My family and I have navigated our way from the shock of financial awakening, through the confusion of a first budget, and onto the constant monitoring of investments. We have witnessed the complexity of finance, the significance of real estate, and the necessity of insurance. We have done these things without losing our sanity or falling back upon our prior bad financial habits.

Our financial needs have been addressed and we are much better off for it. My family no longer lives paycheck-to-paycheck. We have defeated our financial insecurities. The feeling of confidence

generated by the results of this process is one of my family's most treasured supports.

[ABSTRACT]

Experiential Learning in the United States:
Prior Learning Assessment through Portfolio

Reiko Yamada*

This paper presents the status of experiential learning and assessment in the United States. It is well known that the number of non-traditional students has been increasing rapidly in the United States and an assessment system and method toward experiential learning have been developed.

The purpose of this paper is to present the overall picture of prior learning assessment in the United States as well as to show how portfolio assessment is introduced in American Universities. To do so, the paper will show the case study of Regis University which introduces the portfolio as the prior learning assessment system.

*Associate Professor, Poole Gakuin University

Visiting Associate Professor, National Institution for Academic Degrees

